

要旨

【目的】一般病棟看護師が心理的精神的問題を抱える患者に関わる際の患者のとらえ方や、困難の在り方を整理し、看護師への支援の糸口や看護師自身のさらなるスキルアップの視点、リエゾン精神看護専門看護師に求められる役割について考察する。

【方法】医学中央雑誌やハンドサーチにより選択した 22 文献から、看護師の患者のとらえ方、困難を感じる患者の言動、関わる際の気持ちや対応に関する記述を抽出し、整理した。

【結果】「一般病棟看護師の心理的精神的問題を抱える患者のとらえ方」は、否定的なとらえ方が多く抽出された。「一般病棟看護師が心理的精神的問題を抱える患者に関わる際に困難を感じる患者の言動」は、訴えが多い、訴えが少ない、怒りの表出が見られる、暴言・暴力がある、自殺や自傷など自分を傷つける危険な行為に結びつく言動が見られる、守ってほしい治療上の制限やルールを守らない、依存的である、拒否する、気分や行動が変わりやすい、精神症状や心理的問題によりコミュニケーションがとりづらくなっている、他の患者に迷惑をかけると示された。「一般病棟看護師の心理的精神的問題を抱える患者に対する気持ち」は、不安、恐怖、危機感・緊張感、怒り・苛立ち、苦手意識・嫌悪感、無力感、精神的な疲れやストレス、あきらめの気持ち、葛藤、どう関わればよいかわからない、前向きな気持ち、否定的でも肯定的でもない気持ちとして整理できた。「一般病棟看護師の心理的精神的問題を抱える患者への対応」は、看護師自身のつらい感情を表出したり、なんとか処理しようとする、身体治療や患者の安全を優先して、そのために必要なケアや処置を行う、患者の様子をうかがいながら距離を置いて関わる、患者に積極的に関わる、ケアや関わりの視点を広げる、他職種や患者の家族と協力する、自分の経験や知識で何とかしようとする、であった。

【考察】一般病棟看護師が心理的精神的問題を抱える患者に関わる際に困難を感じる要因や背景として、看護師が行おうと思っているケアや業務、他の患者の治療がスムーズに進むことを妨げられるような言動、危険な行動化、関係性をどう構築しけばよいか悩んでしまう患者の様子、看護師の精神科領域に関する知識や技術、経験が不足していること、行われているケアが言語化されにくいこと、看護師が自分の感情を扱うことに慣れていないこと、一般病棟という環境などがあげられ、支援の必要性が示された。リエゾン精神看護専門看護師に期待される役割として、専門領域の知識や技術を補うこと、看護師の内省を支援すること、今できているケアを言語化すること、などが示唆された。